

該当 番号	修正前	修正後
	なお、今後、社会情勢の急激な変化や一定期間経過した場合には、事業の妥当性について再評価を行うこととしています。 また、河川の維持管理については、以下のとおり、取り組んでいます。 堆積土砂については、5年に一度調査を行い、土砂の堆積状況に加え川沿いの市街化の状況や氾濫時の影響などを考慮し、優先順位をつけて除去を実施しています。実施にあたっては、河床変動や湾曲部などの河川特性を踏まえ堆積土砂の除去等を行っています。 河川内の樹木については、大阪府が行う定期的なパトロールで確認を行うことにより、河川内の生態系へも配慮しつつ、治水上の機能を著しく局所的に阻害する恐れがあるものについては撤去を行います。 堤防の老朽化については、施設の定期的な点検等を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握に努め、優先順位を定めて、危険度の高い箇所から計画的に補修を行うこととしています。 なお、本編P46に河川管理施設の維持管理について記載しています。	今後、社会情勢の急激な変化や一定期間経過した場合には、事業の妥当性について再評価を行うこととしています。 なお、お示しいただいた建設中止の理由に対する大阪府の考え方は以下のとおりです。 ■理由1について 安威川ダムは、洪水調節を目的とした治水ダムです。ダムによる洪水調節は、雨により発生する洪水時に川からあふれる量の水をダムによって貯め、下流の河川で安全に流せる量の水をダムから放流します。安威川ダムでは、100年に1度程度発生する恐れのある降雨による洪水がダム地点で毎秒850㎡のところ、洪水調節により最大毎秒250㎡まで低減し、安威川流域にお住まいの方やライフラインをはじめとした都市施設の浸水被害の軽減を図ります。 ■理由2について ダムの損傷リスクについては、計画規模を超える洪水、地震、貯水池内で発生する地すべりによる影響が考えられますが、安威川ダムでは、次のとおり、対策、確認を行っています。 1) 計画規模を超える洪水の影響 ダムでは、水が堤体の天端を越流することによる堤体への影響が考えられます。このため、ダムの設計にあたっては、洪水によりダムの水位が上昇しても堤体を越流することが無いよう、計画規模を超えるような洪水が発生した場合には非常用洪水吐きから放流することにしていきます。 2) 地震による影響 ダムは、設計基準等に基づき、地震時にも必要な安全性が確保されるよう設計を行います。また、安威川ダムでは、耐震性能について、将来にわたり通常考えられる最大級の地震動や、それをさらに上回る超巨大地震を想定した地震動に対する動的解析を行い、ダムの堤体崩壊につながるような損傷は発生しないことを確認しています。 3) 貯水池内で発生する地すべりによる影響 貯水池の斜面で地すべりが発生して、貯水池内で津波が起こり、堤体の天端を越流することによる堤体への影響が考えられますが、貯水池周辺の地すべり調査により、地すべり地形が分布していないことを確認しており、その懸念はないことを確認しています。 また、老朽化に対するご懸念に対しては、安威川ダムでは維持管理を適切に実施することにより、ダムとしての機能を相当な期間にわたり維持してまいります。